

政策評価調書 目標年度(27年度)実績

| | | | | | |
|-----|---------------------------------|-------|-----|-------|-------------------------|
| 政策名 | 恵まれた環境の未来への継承 ～ごみゼロおいた作戦の推進～ | 政策コード | I-5 | 関係部局名 | 生活環境部、商工労働部、農林水産部、土木建築部 |
|-----|---------------------------------|-------|-----|-------|-------------------------|

【Ⅰ. 政策の概要】

大分の恵み豊かな自然環境を守り、美しく快適な県土づくりにつながる環境保全の取り組みやリサイクル等の資源循環の取り組み、二酸化炭素の吸収源対策、環境教育の推進、県民総参加による「ごみゼロおいた作戦」を進める。

【Ⅲ. 政策を構成する施策の評価結果】

| 施策名 | 指標評価 | 総合評価 |
|-------------------------|------|------|
| 1 豊かな自然との共生と快適な地域環境の創造 | 達成 | A |
| 2 循環を基調とする地域社会の構築 | 達成 | A |
| 3 地球環境問題への取り組みの推進 | 概ね達成 | B |
| 4 すべての主体が参加する美しく快適な県づくり | 達成 | A |

【Ⅴ. 政策の達成状況と評価】

「豊かな自然との共生と快適な地域環境の創造」では、県・市町村・漁業協同組合・集落で、海底堆積物の除去及び海底耕うん等に取り組んだことにより、「漁場再生面積」について大幅に目標を達成することができた。

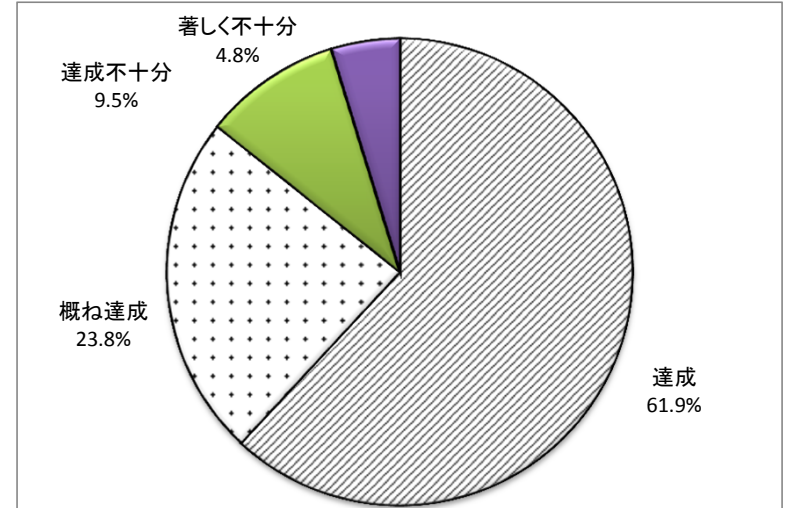
また、「すべての主体が参加する美しく快適な県づくり」では、「レジ袋削減枚数」については目標には達していないものの、事業者、消費者への働きかけにより、マイバッグ持参率は取組開始時より約85%の水準を維持することができている。

一方、「地球環境問題への取り組みの推進」では、「二酸化炭素排出量」について、排出抑制の取組は進んでいるが、原発の稼働停止に伴い火力発電所からの電力供給が増えたことにより、目標には達しなかった。

政策全体の評価としては、重点指標「ごみゼロ行動参加者数」が、目標には届かなかったものの、これまでの各種取組による県民の環境意識の醸成の成果もあり、参加者数は過去最高となるなど、恵み豊かな自然環境の保全や環境教育の推進が図られた。

今後は、これまでの自然と共生する社会づくり、循環型の社会づくり、低炭素社会づくりを引き続き推進するとともに、県民参加型のごみゼロおいた作戦の成果を活かし、ステップアップさせた地域活性化型の「おいたうつくし作戦」を推進し、県民意識の更なる醸成と持続可能な活動基盤を形成していくことにより、美しく快適な大分県の実現を図る。

【Ⅱ. 構成施策の目標指標の達成状況】



| 達成 | 概ね達成 | 達成不十分 | 著しく不十分 | 指標合計 |
|----|------|-------|--------|------|
| 13 | 5 | 2 | 1 | 21 |

【Ⅳ. 評価が著しく不十分となった指標】

| 指標名 | 達成率 |
|------------------------|-------|
| 二酸化炭素排出量(家庭・業務・運輸部門合計) | 69.4% |

<著しく不十分となった理由>

家庭や事業所における節電・省エネに関する行動や意識の定着など、二酸化炭素排出抑制の取組は進んでいるが、原発の稼働停止に伴い、火力発電所からの電力供給が増えたことにより電力のCO₂排出原単位が上昇し、目標には達しなかった。